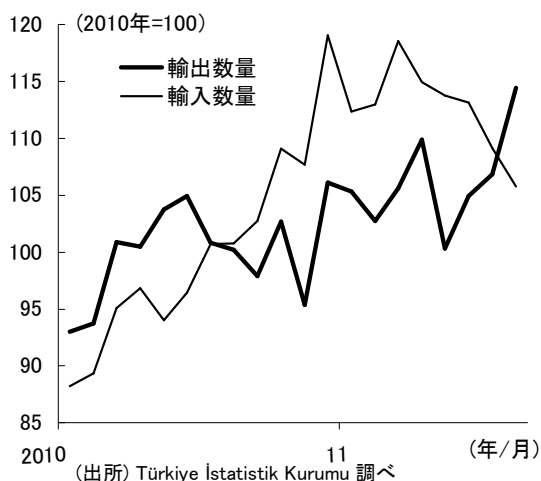




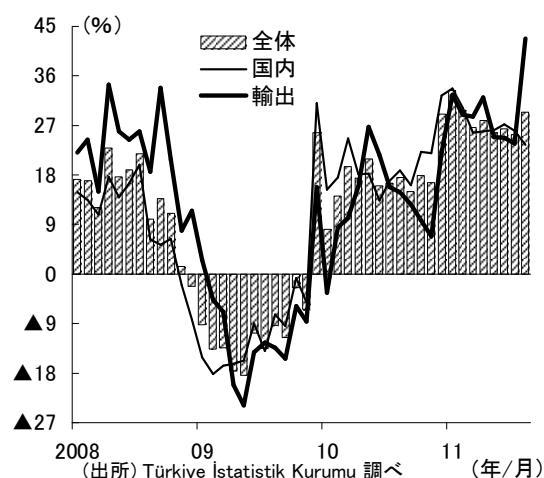
盛り上がるトルコの輸出 ～ 資本流入に伴う生産拠点強化が原動力 ～

- (1) 本年8月トルコの輸出数量が大幅増加(図表1)。従来、トルコは国内需要に生産力が追い付かず、輸入が輸出を上回って増加し、経常収支の赤字幅拡大が成長制約に作用する懸念材料。しかしハイペースの景気拡大が続くなか、今春来、輸入数量が伸び悩みに転じ、7月以降、減少傾向へ。代わって輸出数量が昨年半ば以降の一進一退から大幅増加の兆し。
- (2) 輸出数量増は機械機器が牽引役。鉱工業企業の本年8月売上高は全体で前年比29.4%増(図表2)。国内売上が同23.5%増、輸出は同42.7%増。8月の輸出増加率が大きい業種順にみると、まず78.7%増の電子光学機器、次が62.8%増の金属製品、3位が62.3%増の一般機械、4位が60.7%増の電気機械。素材型でなく、加工組立型業種が中心。
- (3) 輸出数量の盛り上がりを受けて、経常収支の赤字幅拡大に歯止めの兆し(図表3)。本年8月の経常収支は▲39.6億ドルの赤字。前年差は▲9.4億ドルとなり、昨年12月の▲72.3億ドル、前年差▲43.8億ドルから大幅に縮小。
- (4) 昨年末から本年春までの大幅な経常収支赤字局面では、赤字幅が直接投資や証券投資の資本流入を大きく凌駕。しかし経常収支の赤字幅縮小に伴い、資本不足懸念が後退。一方、資本流入動向をみると、昨年末以降、対内直接投資が再び盛り上がり(図表4)。好調なトルコ経済への市場参入のみならず生産拠点としてトルコを活用しようとする動きが拡大。投資拡大を受けて雇用情勢も一段と改善。9月の失業率は10.1%と10%割れ目前まで低下。7月から労働力率が5割超過。とりわけ、従来、経済発展から取り残されてきた地方圏での改善が顕著。経済成長の底上げが進むなか、トルコ経済は7%内外の高成長持続の公算大。

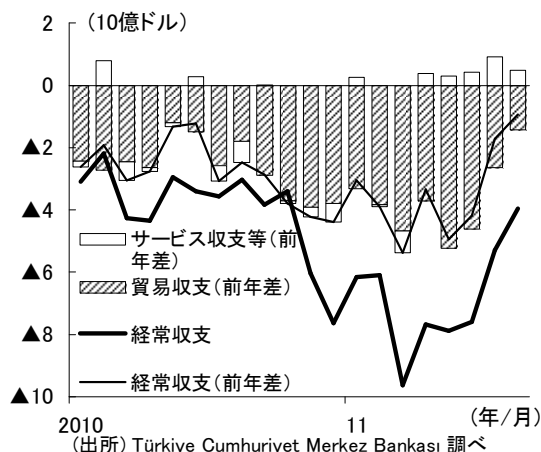
(図表1)トルコの輸出入数量(季調済)



(図表2)トルコの鉱工業企業売上高(前年比)



(図表3)トルコの経常収支



(図表4)トルコの対内対外直接投資

